

登録コード	MA750900	開講年度	2026				
授業科目名	組織細胞病態検査学演習					担当教員	木村 文一 他
英文授業名	Practice in Cell and Tissue Pathophysiology					副担当	
単位数	4	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・6時限 木曜・7時限	対象専攻 / 学年	病因・病態検査学領域 / 2 年次
講義室	保健学科 2 4 1 講義室		授業形態	演習	授業科目区分	選択科目	
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	【ディプロマ・ポリシー】授業で得られる「学位授与の方針」要素						
	MS 2 6 カリ(保健学), MS 2 5 カリ(保健学), MS 2 4 カリ(保健学), MS 2 3 カリ(保健学)						
	【研究科共通】医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。					高度専門職業人・研究者として、健全な倫理観と深く正確な技術を習得し、研究の遂行と教育を実践できる	
	【保健学】高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。					組織および細胞に認められる形態変化の分析能力を習得し、形態的变化と病態を関連づけて病態を解析することができる。	
(2)授業の概要	本授業は担当教員の基礎医学ならびに臨床医学における実務経験を活かして講義ならびに実技指導を行うものである。 病理組織細胞学的検査で応用される古典的染色法、組織化学的および免疫組織化学的染色法、さらには遺伝子発現を捉えるためのin situ hybridization法などの方法論を病態変化と関連づけて学ぶ。また、電子顕微鏡および共焦点レーザースキャン顕微鏡などによる解析法を学ぶ。						
(3)達成目標（一般学習目標 G I O）	1．病理形態学的検査に用いられる組織化学的染色法、免疫組織化学的染色法などの意義と方法を理解できる。 2．電子顕微鏡および共焦点レーザースキャン顕微鏡などの観察法を理解できる。 3．病理組織細胞学的分析能力を身につけ、疾病にみられる形態学的変化を理解できる。 4．数理病理（病理科情報学：画像解析理論と技術、機械学習など）について理解できる。						
(4)達成目標（個別行動目標 S B O s）	1．病理組織細胞学的診断に必要な解析法を説明できる。 2．組織化学的染色法、免疫組織化学的染色法などの比較的新しい形態学的検査に適した材料の処理方法を説明できる。 3．組織化学的染色法、免疫組織化学的染色法などの比較的新しい形態学的検査を疾患による形態学的変化と関連づけて説明できる。 4．電子顕微鏡および共焦点レーザースキャン顕微鏡などの観察法を疾患と関連づけて説明できる。 5．数理病理（病理科情報学：画像解析理論と技術、機械学習など）の基礎事項を説明できる。						
(5)授業計画	4/09 第 1回 病理診断に応用される検査法の意義と方法論の理解 4/23 第 2回 病理診断に応用される検査法の意義と方法論の理解 5/07 第 3回 病理診断に応用される検査法の意義と方法論の理解 5/14 第 4回 病理診断に応用される検査法の意義と方法論の理解 5/21 第 5回 病理診断に応用される検査法の意義と方法論の理解 5/28 第 6回 検査法の実技実習（見学） 6/04 第 7回 検査法の実技実習（見学） 6/11 第 8回 検査法の実技実習（見学） 6/18 第 9回 検査法の実技実習（見学） 6/25 第10回 検査法の実技実習（見学） 7/02 第11回 疾患に伴う形態学的変化の観察法 7/09 第12回 疾患に伴う形態学的変化の観察法 7/16 第13回 疾患に伴う形態学的変化の観察法 7/23 第14回 疾患に伴う形態学的変化の観察法 7/30 第15回 疾患に伴う形態学的変化の観察法						
(6)授業の進め方	講義と実習（見学を含む）						
(7)履修上の注意・事前事後学習の内容	毎回、授業前後に予復習のためのワークをeALPSにアップする。それは次回の授業で回収するので、自分で印刷して持参すること。						
(8)成績評価の方法	講義・実習で触れた解析法の理論と結果の解析法等についての理解度・到達度をレポートにより評価する。						
(9)成績評価の基準	講義・実習で触れた解析法の理論と結果の解析法等についての理解度・到達度をレポートにより以下様に評価する。 基準） 問題の設定が適切であり， その問題の背景を説明できており， その問題にどのような課題があるのかを指摘できており， それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており， その上で自分の見解を提示できており，かつ，教員を感心させるレベルにあれば「卓越している（秀）」。 から の5項目を満たしていれば「かなり上にある（優）」。 4項目までできていれば「やや上にある（良）」。 3項目までできていれば「水準にある(可)」。						
(10)学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	質問、相談は随時対応します。 木村文一 kimura_f@shinshu-u.ac.jp						

【テキスト，教材，参考書】	教科書：指定しない。 参考書：随時紹介する。
---------------	---------------------------